

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

連番	473	例会No.	一般289	内容	ベーシック登山No.16 北陸・賤ヶ岳と余呉湖	実施年月日	2012/11/3	担当者	秋田、大石	参加者数	12
参加者	秋田文雄、大石隆生、青木義雄、松本明恵、三原知未、三原博子、寄川都美子、山本洋、櫻田克彦、小杉美代子、上原進一、吉田伸實										
担当者コメント	琵琶湖八景に入る、余呉湖と賤ヶ岳又賤ヶ岳古戦場は戦国時代の歴史的ハイキングで羽柴秀吉と柴田勝家が決した合戦場跡と、余呉湖の湖畔を一周するコースです。大阪出発の時は晴れていたが、余呉駅に着くとさすがに湖北で肌寒く北国の冬を思わせる。空は雲も低く鉛色した気の重く成るような空模様。空模様とは逆に寒いと、言いながら皆な元気よく余呉駅を出発。羽衣橋を渡ると江口登山口(10:50)ここは賤ヶ岳の登山口の道標がある。よく踏まれた歩き易い緩やかな山道。しばらく登ると「大岩山登山口の分岐の道標」に出会う。さらにブナや赤松の樹林の山道を行くと、中川清秀の墓の道標これより2~3分道より外れた所に墓がある。中川清秀は大阪茨木の城主で秀吉に味方して、賤ヶ岳の戦いで先鋒として大岩山砦で柴田勝家の勇将、佐久間成政の猛攻にあい戦死する。道は緩やかな登りで杉木立の中を進むと、中川清秀の首洗池の分岐を過ぎて猿が馬場(ここで秀吉が敵方の追撃戦を指揮したと伝えられている)しばらく行くと急勾配の登りに前が開けてくる頃熊に注意のカンバンがある。山頂にでる。頂上(421.1m)三等三角点あり12:30。視界が一気に広がり、北の眼下に余呉湖と南の眼下に奥琵琶湖と山本山へ続く山並が美しい。どんよりした鉛色の空と波一ツ立たない静かな両湖。此の景色は水墨画を見ているようだ。山頂から余呉湖荘には飯浦切通し分岐コルまでは急な下り。あとは広い山道で頂上より30分ほどで、余呉湖の湖岸沿いの車道に13:30に着く。車道を左折し8分ほど歩くと途中トイレあり、ここから湖畔沿いに余呉湖を年中静かな湖と言われ「鏡湖とも呼ばれている」対岸には今日歩いてきた大岩山や賤ヶ岳の山並を眺め里山の湖畔の静かな散歩道を余呉湖の終わりの頃天女が水浴びに舞い下りた時羽衣を掛けたと言われる、立派な衣掛柳の大木。これを過ぎれば余呉駅14:30着く。全員元気に解散お疲れでした。 記:秋田										
連番	474	例会No.	OP176	内容	大峰・西ノ峰と雨谷山~茶臼山	実施年月日	2012/11/3~4	担当者	板谷	参加者数	10
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、安岡和子、黒澤百合子、川守田康行、近藤さとみ、谷村洋子、江本恭子、三原秀元										
担当者コメント	11/3 大台ヶ原へ向かうらしい車が多い国道169だが、順調に走り11時にはオゾゴエ峠をスタートできた。今日の西ノ峰登山は、明日の長丁場の準備運動みたいなものだが、つるべ落としの秋の午後に追われるようにひたすら登りひたすら下った。登山地図には所要6時間20分とあるのを5時間20分で完了し、日が暮れないうちに早々にキャンプ地へ向かい明日の英気を養った。 南下を続けた大峰山脈主脈は笠捨山(1352.3m)で地蔵岳に向かって西に90°方向を変える。ここから南東に派生した尾根は茶臼山(1180.7m)を起し更に南へ西ノ峰(地理院地形図では西峯1123.1m)を連ね北山川瀨峡へと没している。また茶臼山・西ノ峰間から南東に派生した尾根には雨谷山(840.3m)を起し、同じく瀨峡に没している。地形図を眺めると特に雨谷山~茶臼山間の尾根は両側が岩壁記号で埋められており、人ずれした大峰の主脈から目を転じる者にとっては周辺に巡る四ノ川、立合川といった名だたる溪谷と相まって、いやがうえにも興味をそそられる山域である。四ノ川林道登山口から雨谷山までは植林中の荒れた単調な直登ルートで苦しいがここを過ぎて茶臼山までの稜線はシャクナゲに囲まれ、随所に岩場も現れ変化があり、今の時期は自然林の紅葉が続く気持ちの良いルートだ。幸い二日間とも快晴に恵まれ我々以外誰一人にも出会わない大峰の隠れたピークを満喫した。 記:板谷										
連番	475	例会No.	一般290	内容	丹波・甚五郎山、羽東山、宰相ヶ	実施年月日	2012/11/11	担当者	翁長、三原	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	476	例会No.	OP177	内容	播州・三草山と丹波恐竜発掘現場	実施年月日	2012/11/18	担当者	紀伊栞本(節)、小椋(勝)、安本(昭)	参加者数	20
参加者	紀伊栞本節雄、小椋勝久、安本昭久、大石隆生、青木義雄、寄川都美子、小杉美代子、堀木宣夫、櫻田克彦、福田直也、上原進一、山下登志子、高木恵美子、安部泰子、紀伊栞本博美、西村美幸、西村晶、神阪洋子、杉本栄子、西田保										
担当者コメント	今回は、ハイキング+歴史探訪No. 22、+α No. 9+化石発掘現場見学と言う事で盛りだくさんの例会でした。JR新三田駅からチャーターバスに乗り換え三草山へと向かう。車中で義経の三草山の戦いの説明を受けているうちに鹿野登山口に到着。登山道は先日の雨の影響で濡れてすべりやすくなっているため、足元を注意しながら登って行く途中後ろを振り返ると播州平野の展望が目の前に現れる、景色の素晴らしさに足を止めしばし眺望を楽しみながら歩く。尾根まで出ると起伏のない快適な登山道が続き、それぞれ紅葉などを楽しみながら歩く、途中 桂の木の甘い香りが漂う中を頂上へと向かう。頂上は360度の展望、敵を見るのを山に替えて皆で山岳展望、遠くに横尾山から明石海峡大橋を見ることができた。紅葉の尾根道を義経が福原に攻め入るために通った丹波路(現在の国道372号線)を横手に見ながら下山する。下山後チャーターバスで移動し丹波市 丹波竜化石工房 ちーたんの館へ。施設で丹波竜発見当時の様子や化石の標本などを見学後バスで山南町上滝の化石発掘現場へ向かう。現場に到着後、無農薬農法の村上鷹夫さんと丹波竜第一発見者の村上茂さんの紹介をしてもらう。村上茂さんに発掘現場を案内してもらい、発見当時の話や施設の維持、村おこしの苦労話を聞く。最後にもう一つの楽しみ +αカモ鍋。発掘現場の案内も終わり、施設に帰ってくると鍋から白い湯気が立ち始めており部屋中に食欲をそそる香り、早々に席に着き 今か今かと逸る気持ちを抑え、無農薬農法と、カモの話をも村上鷹夫さんから説明を受ける。鯛もひとりほうまからず、おいしいカモ鍋をワイワイガヤガヤと気の合った仲間と食べると、より一層おいしく箸が進みます。締めは蕎麦で・・・満足、満足。お腹もいっぱいになり秋の早い夕暮れの中、鍋の余韻を残しながらチャーターバスで新三田駅へ向かう。今回お世話になった 村上鷹夫さんには恐竜、鴨鍋の全般のお世話をいただきました。鷹夫さんは発掘現場近くの農場で合鴨による無農薬の稲作、豆類の栽培、栗園の管理をしながら恐竜発掘のボランティアをされています。また中国の黄土高原で緑化活動をされているそうです。村上茂さんは丹波竜第一発見者で、大阪でサラリーマンをしていて定年後地元に戻って来て化石を発見されました。その後も恐竜にかかわるボランティア、村おこしなどで地元へ貢献されています。恐竜の化石発見と言う出来事により充実した第二の人生を送られているようです。お二人とも ありがとうございます。 記:紀伊栞本(節)										

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

連番	477	例会No.	一般291	内容	比良・小女郎峠から蓬莱山	実施年月日	2012/11/25	担当者	大西(恒)、杉本(康)	参加者数	12
参加者	大西恒雄、杉本康夫、寄川都美子、安本嘉代、杉本栄子、保木道代、福田直也、櫻田克彦、小杉美代子、岸田暎子、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美										
担当者コメント	小女郎峠、妖しげで少し艶めかしい名前の峠である。私にとっては懐かしいところである。40年前、まだ山岳会の新人であった頃の、ピッケルだけで掘った中途半端な蛸壺でしたビバーク訓練で眠れなかった頃を思い出す。そんな思いのある峠であるが、その部分しか覚えていず、コースのことは覚えていない。蓬莱山・打見山、これも同様にスキーで苦労した思い出しかない。谷沿いに伸びる道をひたすらまっすぐ進むと大きな堰堤に行き当たり、回り込むと沢沿いの山道になる。何度もジグザグに方向を変えて木立の中を登ると、やがて開けた沢近くを進むことになり、一汗も二汗もかいた頃にアルプスの稜線直下のような草原のようなところに出て、すぐに峠の標識が出てくる。小女郎峠である。蓬莱山は目の前一登り。動いていないゴンドラやリフトのあるスキー場も今日の上天気に違和感がない。なんかノンビリとした雰囲気にはびたりである。琵琶湖の湖面もはっきりと一望できる。スキー場のフェンスの切れ間から下山にかかる。道ははっきりしているが一面の落ち葉に隠れて落石があちこちにあるので気を抜けない。うんざりする頃やっと車道に出て駅への道をゆっくり下り今回の山行きを終える。ノンビリとした良い山でしたが足に身が入りました。 記:大西(恒)										
連番	478	例会No.	OP178	内容	日名倉山	実施年月日	2013/12/9	担当者	翁長、小椋(勝)	参加者数	10
参加者	翁長和幸、小椋勝久、寄川都美子、杉本栄子、福田直也、櫻田克彦、紀伊塾本博美、寺島直子、神阪洋子、岩本和行										
担当者コメント	今冬初めて雪を踏みました。頂上からは後山の白いピークが見渡せ、里山のスノーハイキングといった雰囲気でした。登山者は我々だけだった、というのもとても良かった。 記:翁長										
連番	479	例会No.	一般292	内容	丹波・弥十郎ヶ岳	実施年月日	2012/12/22	担当者	野原、杉本(康)	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	480	例会No.	OP179	内容	鈴鹿・鬼ヶ牙～臼杵ヶ岳	実施年月日	2012/12/23	担当者	板谷、安部	参加者数	9
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、安岡和子、黒澤百合子、川守田康行、寺島直子、安本嘉代、江本恭										
担当者コメント	年末のクリスマス山行として、過去大峰を中心に選んできましたが、ネタ切れの感があり、クリスマス寒波の積雪が期待できる鈴鹿山脈に目を転じることにしました。鈴鹿の主稜線上の山はよく知られていますが、それらを外れると、風変わりな山名や意味が不明のカタカナの山名を冠された山が点在します。ここ鬼ヶ牙もその一つ、登山地図に一部ルートが描かれているものの、主稜線とは繋がっていません。しかし実地で調べてみると日帰りラウンドコースとして適当なルートが取れることが解り、鈴鹿の隠れたピークとして最初に選んでみました。残念ながら積雪はゼロでその点では面白みに欠けましたが、鬼ヶ牙の山名に相応しい景観を味わって頂けたのではないのでしょうか。 記:板谷										
連番	481	例会No.	一般293	内容	播州加西・善防山と笠松山	実施年月日	2013/1/6	担当者	紀伊塾本(節)、秋田	参加者数	16
参加者	紀伊塾本節雄、秋田文雄、山橋初好、大石隆生、青木義雄、小杉美代子、堀木宣夫、櫻田克彦、福田直也、高木恵美子、紀伊塾本博美、西村晶、杉本栄子、山本洋、安本昭久、内杉安繁										
担当者コメント	本年最初の例会は快晴に恵まれました。早春のハイキングを存分に楽しむことが出来ました。何んのでらいもなく、のどかなハイキングを心から喜べるとはうれしい事です。やはり皆さん健康なればこそでしょう。ご家族円満なればこそでしょう。天下泰平?なればでしょう。EPEの皆さん、本年もどうかよろしくお願ひ致します。 記:紀伊塾本(節)										
連番	482	例会No.	一般294	内容	新年ハイキング・雨山	実施年月日	2013/1/13	担当者	翁長、大西(恒)、小椋(勝)、大石	参加者数	48
参加者	紀伊塾本博美、磯辺秀雄、西田保、翁長和幸、板谷佳史、西村晶、西村美幸、笠松マサエ、大石隆生、野原勇、安部泰子、岩本和行、松田芳治、和田良次、和田敬子、川崎喜美子、谷村洋子、真下好雄、櫻井宏子、安岡和子、横内まみね、櫻田克彦、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、寄川都美子、寺島直子、山下登志子、高木恵美子、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、吉田伸實、上原進一、三浦清江、實操綾子、杉本栄子、和田都子、藤田喜久江、川下淳子、小杉美代子、喜多田恵美子、片山純江、榊田誠寛、脇本勇二、永島健一										
担当者コメント	「いよやかの郷」が差し向けてくださる送迎バスのおかげでスムーズに登山口に集合。快晴、暖かな日差しの新年ハイキングとなりました。50名ちかい大人数が同じコースを登るのは大変なので2コースに別れ山頂で合流となりました。山頂で和やかに過ごした後、全員成合に下山、再び送迎バスのお世話になり、総会・新年会会場の「いよやかの郷」へ移動。総会の開始時間まで入浴などで自由時間を過ごす。										
連番	483	例会No.	新年会	内容	2013年新年会・牛滝山「いよやかの郷」	実施年月日	2013/1/13	担当者	翁長、大西(恒)、小椋(勝)、大石	参加者数	61
参加者	深井英司、紀伊塾本節雄、紀伊塾本博美、和田晴次、神阪鐵志、神阪洋子、秋田文雄、磯辺秀雄、水田恵夫、大西恒雄、西田保、翁長和幸、畑山禮子、板谷佳史、西村晶、西村美幸、笠松マサエ、大石隆生、杉本康夫、野原勇、小椋勝久、安部泰子、岩本和行、青木義雄、松田芳治、和田良次、和田敬子、川崎喜美子、谷村洋子、真下好雄、櫻井宏子、安岡和子、横内まみね、櫻田克彦、黒澤百合子、近藤さとみ、保木道代、寄川都美子、寺島直子、山下登志子、高木恵美子、堀木宣夫、安本昭久、安本嘉代、山本洋、齋藤容子、吉田伸實、上原進一、三浦清江、實操綾子、杉本栄子、和田都子、藤田喜久江、川下淳子、小杉美代子、喜多田恵美子、片山純江、榊田誠寛、脇本勇二、永島健一、松本明恵										

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	2013年度の総会は10周年記念事業の報告と記念登山参加者の表彰を中心に行われ、計36名の各賞の達成者に賞品が贈られ会場は多に沸きました。最後に紀伊榎本代表から、2013年度は新制度への準備の年とする旨報告がなされて総会を終了しました。引き続き新年会の宴に移り、次の10年に向かう新たなスタートを期して、深井先輩の乾杯で歓談の時間を過ごしました。途中例年通り抽選会も行われ、最後に注目の和田(晴次)先輩寄贈の絵画2点の抽選になり、ラッキーな方の歓声が上がりました。お開きの掛け声の後、午後6時過ぎ、用意された送迎バスに乗らないと帰れないということで解散となりました。 記:板谷									
連番	484	例会No.	OP180	内容	東北スキー場めぐり、その6 宮城県鳴子温泉・オニコウバス スキー場	実施年月日	2013/1/20~23	担当者	紀伊榎本(節)、 上原	
参加者	紀伊榎本節雄、上原進一、山下登志子、内杉安繁、安本昭久、安本嘉代、紀伊榎本博美、和田良次、和田敬子、杉本栄子、山田春雄、達健一、安岡和子、保木道代								参加者数	14
担当者コメント	東北スキー場巡りも6回目を重ねた。まだまだ続けるつもりだが、この先はさらにローカルになるだろう。30年ほど前に「なぜ今、東北か」と題して東北の山々を巡り廻ったが、それは表街道、あのときもっと奥深く突っ込むべきだったと今は悔やむ。そういえば何事も悔やむことばかり、せめてここにきてまた悔やむことのないようにしたい。そうだ、スキーの楽しさと共に、はじめて出会う山々に感動する喜びを堪能しよう。東北スキー場巡り万歳！ 記:紀伊榎本(節)									
連番	485	例会No.	一般295	内容	丹波・石金山～イタリ山	実施年月日	2013/1/27	担当者	板谷	
参加者	板谷佳史、杉本栄子、保木道代、寺島直子、小杉美代子、安本嘉代、安本昭久、樺田克彦、近藤さとみ、寄川都美子、谷村洋子、櫻井宏子、黒澤百合子								参加者数	13
担当者コメント	車窓から眺めると、宝塚付近から屋根の上にはうすうす積雪が。丹波に入ると山かげは雪景色となり、石金山の登山口・小新屋観音は美しい冬景色となっていた。雲一つない冬晴れとなり石金山頂では期待通りの大展望を満喫できた。丹波の山の中でもここほど360度展望がきくピークは少ない。イタリ山への縦走路にはクサリ場があったりして退屈しないコースとなっている。アイゼンや防寒具がお荷物になるほどの申し分の無い真冬のハイキングでした。 記:板谷									
連番	486	例会No.	一般296	内容	三重・高見山	実施年月日	2013/2/3	担当者	翁長、杉本(康)	
参加者	翁長和幸、杉本康夫、寄川都美子、杉本栄子、福田直也、紀伊榎本節雄、紀伊榎本博美、和田都子、和田敬子、喜多田恵美子、實操綾子、真下好雄、小杉美代子、板谷佳史、青木義雄、片山純江、藤田喜久江、安岡和子、近藤さとみ								参加者数	19
担当者コメント	前日までの陽気で樹氷はあきらめていた。杉谷・平野コースの合流点でも、ちらほら木陰に雪があるぐらいで期待は益々薄らいでいったが、登山道の所どころに雪がでてきた頃より、樹氷の中を行くようになる。北斜面は樹氷で一面の白い雑木林となっていた。メルヘンの世界だった。一方、顔を上げればブルースカイをバックに樹氷が逆光の中に光っている。これも又、良しである。山全体が雪におおわれている時の樹氷は、単なる冬山の景観でしかないが、黒々とした山肌の中にある樹氷というのは、白がより強調され趣を増すように感じた。中々良いものである。今回は樹氷真っ盛りという程ではなかったが、参加してくれた仲間の皆さんには、多少なりとも満足してもらえた事と思っています。初めてアイゼンをつけて歩く人もおり、相変わらずワァー・ワァーと賑やかな楽しい一日でした。 記:翁長									
連番	487	例会No.	一般297	内容	紀州・鏡石山、熊尾山	実施年月日	2013/2/10	担当者	小椋(勝)、大石	
参加者	小椋勝久、大石隆生、堀木宣夫、樺田克彦、安本嘉代、谷村洋子、寄川都美子、近藤さとみ、福田直也、紀伊榎本節雄、紀伊榎本博美								参加者数	11
担当者コメント	阪和自動車道を南に向いて走っていると海南市に差し掛かる頃、前方に高速をふさぐ様に横たわる山脈が見えてきます。それが以前から気になっていた藤白山脈(長峰山脈)です。海南市からタクシーに分乗し禅林寺へ、禅林寺からしばらく里道を歩き別所越へ。別所越から山道を歩いていると突然、林道に出る。林道を横切り陶芸の里へ、陶芸の里からは有田から海南市を結ぶ古道を歩く。古道沿いには、大野城主の墓や、茶屋跡などがあり当時のにぎわいを偲ばせる遺構も数多く残っており、話も弾み楽しく歩く事が出来た。鏡石山で休憩し長峰山脈主稜線を木漏れ日の中、快適に歩くことができたが、オフロードのオートバイとの鉢合わせには身の危険さえ感じさせられ、楽しい気分を損ねさせられた。大野城跡を過ぎ、藤白山を過ぎたあたりで突然みかん畑に出る。みかん畑の農道を歩き地蔵峠へ、地蔵峠では以前、例会で企画された熊野古道で来たこともある御所ノ芝で休憩、景色の素晴らしさに疲れも癒され、冷水浦駅目指し下山した。今回は少し長丁場でもありエスケープルートなどを考えるなど心配しましたが、見所もたくさんあり、変化に富んだ山行きだったせいもあって皆元気に楽しく歩く事ができました。 記:小椋(勝)									
連番	488	例会No.	OP181	内容	第11回スキーカーニバル イン 北海道・富良野	実施年月日	2013/2/17~21	担当者	紀伊榎本(節)、 西村(晶)	
参加者	紀伊榎本節雄、西村晶、山下登志子、安本昭久、安本嘉代、紀伊榎本博美、和田良次、和田敬子、上原進一、寺島直子、片山純江、野原勇								参加者数	12
担当者コメント	スキー再開しました！久しぶりのスキーで緊張しましたが、ワンポイントレッスンと「ホ、ホーイ！」の声に励まされ、あつという間の5日間でした。カニ、ホッケ、炎のスペアリブ、富良野ワイン、キュキュ雪、そしてゴンドラ。とてつもない力を秘めながら優しく素敵な皆さん、「そのうちあなたにもEPEクラブのすごさがわかりますよ」とは、先輩の言葉です。これからどうぞよろしくお願いたします。 記:片山(純) スキーカーニバルとして06年、07年に続き富良野スキー場には今回で三度目です。他に二度重ねた場所もないところから、よほど皆さん富良野がお気に入りと思われたい。もっともトニー・ザイラーの名がコース名として残されているように、かつてフラノは世界のビックネームの一角を占めていました。その頃、世界のスキー用品の三分の一は日本で消費されていたそうです。さてもさてグレンデは相変わらずの空き空きです。これはこれでうれしいことですが、このままでは近い将来、日本のスキー場は半減するのではないのでしょうか？余計なお世話とは云わないでください。我らがチームはまだまだ、これから本領を発揮するつもりです。内外を問わず、このホームページをご覧の皆様へ今一度伝えましょう。今は100年に一度訪れたスキーヤー天国か、さもなくば、スキー場受難の瀬戸際です。その鍵を握っているのは我らが世代です、まだまだこれからですぞ！ おお！シーハイル！ 記:紀伊榎本(節)									

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

連番	489	例会No.	一般299	内容	丹波・トングリ山と西寺山	実施年月日	2013/2/24	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、寺島直子、近藤さとみ、福田直也、小杉美代子、谷村洋子、黒澤百合子、安本嘉								参加者数	9
担当者コメント	北日本は大雪との予報で丹波地方も早朝からの降雪で、四斗谷はすっかり雪化粧の中での出発となった。といっても山中でも多くてせいぜい20cm止まりの積雪量、時折青空が覗くくらいの天候で終始雪景色を楽しみながらの丹波のハイキングでした。両山とも地形図に登山道の記入は無いがトングリ山へは明瞭な踏み跡が付いている。更に稜線通しに西寺山までも踏み跡ははっきりしている。ただし、西寺山から四斗谷への下降路に取ったルートは下へ行くほど踏み跡不明瞭になり、強行突破せざるを得ない箇所もある。が、積雪と冬枯れで藪も気にならない程度で、午後からは上がった気温で下りついた里の積雪もすっかり溶けて影も形も無くなっていった。 記:板谷									
連番	490	例会No.	一般300	内容	金剛山二河原邊道	実施年月日	2013/3/3	担当者	杉本(康)、大西(恒)	
参加者	杉本康夫、大西恒雄、福田直也、寄川都美子、磯辺秀雄、真下好雄、西村晶、和田敬子、青木義雄、和田都子、片山純江、喜多田恵美子、寺島直子、堀木宣夫、樺田克彦、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、吉田伸實、岩崎真美子、杉本栄子、江本恭子、近藤さとみ、安本嘉代、谷村洋子、實操綾子、小杉美代子								参加者数	26
担当者コメント	二河原邊道は鎌倉時代末期から南北朝時代にかけて金剛山一帯を本拠地としていた、楠木正成が築いた上赤阪城塞群を行くものです。建水分神社から歩いて来ると、林道横に案内板がありここから二河原邊道に入る。道は山城らしく谷底状態になったところや、痩せ尾根もあって一人が通れるぐらいの狭い道である。上赤阪城跡からは大阪平野を一望のもと見渡せ山城としては適所であった事がうかがえる。上赤阪城跡を出ると猫路山城跡を通り坊領山(国見山城跡)は横目で見ながら、自然林や手入れのされていない植林の道を約3時間で一般登山道に出る。途中、前日からの寒波によると思われる金剛山の樹氷が樹間から望まれた。ここまでは誰と会うこともなく、私達の話し声だけの静かな山行を楽しめた。金剛山頂広場まで来ると、登山者も多くなってきた。葛城神社を過ぎ、ダイヤモンドトレイルの広い道から横にそれて、日頃立ち寄りすることのない一等三角点のある湧出岳に登る。伏見峠からはコンクリートで固められた念仏坂を一路ロープウェイ前バス停へと下っていく。 記:杉本(康)									
連番	491	例会No.	一般301	内容	湖北・呉枯ノ峰	実施年月日	2013/3/16	担当者	野原、大石	
参加者	野原勇、大石隆生、岸田暎子、谷村洋子、近藤さとみ、保木道代、杉本栄子、安本昭久、寺島直子、櫻井宏子、小杉美代子、安本嘉代、神阪洋子								参加者数	13
担当者コメント	小雨の中JR木ノ本駅を出発。古い歴史を感じさせる北国街道の町並みを見ながら北へ。菅山寺への分岐に至るまでの縦走路は小さな石仏が数多く設置された巡礼の道。菅山寺山門の両側には、この寺で6歳から11歳まで修行した菅原道真が植えたと言えられる見事なケヤキの大木が立っているが、現在は無住寺であるためか本堂や鐘楼など痛みが目立つ。因みに菅山寺という名称は、後年この寺の再興に尽くした菅原道真の一字を採って改称したということです。縦走路に戻る頃には、小康状態を保っていた天気もアラレ混じりのミヅレとなり、風も強く雨中の昼食となった。呉枯の峰は一等三角点を持つ山であるが、縦走路上の一点でしかなく、山頂という感じはまったくない。山頂表示板も「呉枯の峰(531.9m)」と記した小さな板切れが棒に括りつけてあるだけで貧弱そのもの。展望もまったくなし。頂上を後に、田上山城址を経て、飛鳥時代の創建と伝わる意富布良(おほふら)神社へ下山。1時間1本の電車の時間調整のため、往路では割愛した木之本本地蔵院を参詣。その後ブラブラと町を散策しながらも、発車の30分前にはJR木ノ本駅に到着、解散とした。余談ですが、来年のNHK大河ドラマは戦国時代の武将黒田官兵衛を扱った「軍師官兵衛」(豊臣秀吉の軍師)で、この木之本は黒田家発祥の地ということです。町はノボリを立てたりして観光客誘致に動いていますが成果やいかに。 記:野原									
連番	492	例会No.	一般302	内容	ベーシック登山No.17 京都・高塚山～醍醐山	実施年月日	2013/3/16	担当者	秋田、紀伊栞本(節)	
参加者	秋田文雄、紀伊栞本節雄、青木義雄、杉本栄子、山柁初好、安本昭久、三浦清江、岡本佳久、三原知未、三原博子、寄川都美子、實操綾子、磯辺秀雄、山下登志子、紀伊栞本博美、山本洋、吉田伸實、安								参加者数	18
担当者コメント	冬の寒い日から解放され今日は晴天の暖かい日でハイキング日和に恵まれる。醍醐駅(10:00)より醍醐寺の山門を潜り仁王門を左に約300m程で長岡天満宮の参道の入口に階段を登ると長岡天満宮(10:22)に着く。これより、高塚山の登りになるが派生した少し急な山道で迷いやすいし標示もないが、落葉道で歩きやすい。展望は無いが静穏な気持ちを持てる心静かに歩ける山道だ。約60分で高塚山の山頂に。雑木林の中で三等三角点(485m)に立つ(11:25)少し早い昼食にする。高塚山より下り牛尾観音分岐を過ぎ車道に。約20分で横嶺峠に着く(12:50)。醍醐山へは尾根道を階段状に登ると平坦になり醍醐山(454m)に、山頂は分かり難い。間もなく五大堂(13:10)に、毎年二月二三日に行われる行事醍醐寺の「餅上げ力奉納」鏡餅(男子150キロ女子90キロ)を持ち上げ、その持続時間を競う。奉納して無病息災・身体堅固を祈る行事。ここから参道を下るが、道並みに重要文化財のお堂ありその中には国宝級の仏像など。准胝堂(平成20年8月に落雷が原因で全焼現在は平地)・薬師堂・醍醐水・不動滝など女人堂まで歴史散歩できる。女人堂からは、観光客も多く三寶院・総門まで「醍醐の桜で有名である」三寶院の唐門(国宝の勅使門)の門扉に五七桐と菊花紋が大きく金で浮彫され立派なもので一度見る価値はある。醍醐総門(14:40)から車道を東西線醍醐駅(15:00)に、今日の山行は終わり解散する。 記:秋田									
連番	493	例会No.	OP182	内容	石徹白・野伏ヶ岳	実施年月日	2013/3/23~24	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、寺島直子、安岡和子、川守田康行、近藤さとみ、谷村洋子								参加者数	8
担当者コメント	野伏ヶ岳は白山信仰にまつわる山の一つで山名は山伏に由来するという。三百名山に数えられてはいるが登山道は無く、無雪期は藪で登れない山ということになっている。有名な山にはいつも登山者がごったがえす昨今、そんな山も有って良いだろう。3/23 予定した白山中居神社の駐車場は山屋、スキーヤーと釣りの車ですでに満杯、更に進んで石徹白川河畔の空き地に駐車場所を見つける。おだやかな小春日和に恵まれ3時間程で予定通りの牧場跡にテント泊する。3/24 狙いどおりクラストした積雪にアイゼンを効かせてダイレクト尾根に取付く。天気予報とは逆に登るにつれ快晴の空となってくるのには、内心小躍りする想いであった。期待通りの登行気分が味わえ、おまけに山頂では期待通りの360度展望が楽しめ、年に一度のEPEクラブ積雪期登山の例会を今年も予定通り実施することができました。 記:板谷									
連番	494	例会No.	一般303	内容	比良・釈迦ヶ岳	実施年月日	2013/3/31	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

参加者	小椋勝久、西村晶、杉本栄子、保木道代、福田直也、櫻井宏子、神阪洋子、谷村洋子、安本嘉代、近藤さとみ、寄川都美子							参加者数	11
担当者コメント	先日からの天気予報は雨、湖西線に乗り継いだ頃からポツポツと降り始め比良駅に着いた頃には本格的な雨、これで今日の山行きは雨の中かと考えながら駅を出ると雨は小雨になり上がり始めていた。これも日頃の私の行いがよほど良いのかなと一人勝手な考えをめぐらせながらタクシーでイン谷口へ。イン谷口から雨上がりの林道をリフト跡跡に向かって歩く。まだ、リフトがあった頃のことを思い出しながら谷間を登り尾根道へ出る。尾根から琵琶湖を見下ろすと雨上がりの琵琶湖に霧の雲海、墨絵の世界が目の前に広がり思わず声があがる。途中、リフト沿いの尾根道にはシャクナゲ、イワカガミなどの群生地があり花の季節はさぞ賑やかなことだろうと思ひ、いつか例会にしようかと考える。釈迦ヶ岳、直下の急登を、息を切らせながら登って行くと残雪が冷たい風と共に現れ始める。まだ春遠からじ、寒さの中昼食をとり、釈迦ヶ岳へ。釈迦ヶ岳からまだ雪の残る尾根道を涼峠に向かう。途中ヤケ山に近づくにつれ春の日差しが戻り快適な山歩きとなる。喋りながら歩いているうちに涼峠へ、一息入れ楊梅の滝登山口へ向かい下山する。 記:小椋(勝)								
連番	495	例会No.	一般304	内容	ベーシック登山No.18 生駒山系・飯盛山	実施年月日	2013/4/6	担当者	秋田、大石
参加者								参加者数	
担当者コメント	荒天中止								
連番	496	例会No.	一般305	内容	播州・千ヶ峰	実施年月日	2013/4/7	担当者	小椋(勝)、板谷
参加者								参加者数	
担当者コメント	荒天中止								
連番	497	例会No.	一般306	内容	比叡山・志賀越え壺笠山	実施年月日	2013/4/14	担当者	紀伊栞本(節)、西村(晶)
参加者	紀伊栞本節雄、西村晶、福田直也、渡邊恵美子、櫻井宏子、小杉美代子、杉本栄子、松田芳治、保木道代、安本嘉代、岸田暎子、黒澤百合子、谷村洋子、安本昭久、近藤さとみ							参加者数	15
担当者コメント	暖かい快晴の朝、京都白川から旧志賀越えを行く、正しくはどこをどう通るかは別として、私達は気ままに好きなルートを選べば良い。近江から京に至る峠道は4、5本あるが、ここは一番高所を越すことになる。鈴鹿越えの杉峠、飛騨越えの野麦峠などEPEでもけっこう峠越えは好まれる。往時の旅人を想う心が、今頃の自分に通じるのだろう。旅はさすらいである、山(登山)もさすらいになってしまった。でも、今日のルートは絶好のハイキングコースである。前半の比叡アルプスはとくに心地よい、行き交う人も無く花盛りの尾根道をしずかに辿るのは最高である。そして後半はさながら歴史探訪、一本杉に向かP543付近から尾根上に城跡痕らしき切開が多い。よく地図を読むと、この付近から東に3キロほどの位置に壺笠山城があり、この間に大きな起伏はない。織田信長包囲網をひいた浅井、朝倉連合軍は北の背後に叡山を控え、一段下がったこの位置に京、近江を見下ろせる「鶴翼の陣」を敷いたのか、すると壺笠山城の存在も見えてくる。ハイキングに講釈は無用と思ひながら、こうなると私の足腰に疲れはない。15時過ぎに南志賀町に下山。そこからさらに街の舗道をテクテクと歩く、「あれが織田軍きっての猛将森可成の死守した宇佐山城です」と指しても、周りの皆さんはすでに食傷気味、歩数計は29000ほど示していたそうで、さて今日はハードなハイキングでしたかな?と思う。15:50、JR湖西線神宮前駅に到着した。 記:紀伊栞本(節)								
連番	498	例会No.	一般307	内容	比良・霊仙山～権現山	実施年月日	2013/4/21	担当者	大西(恒)、杉本(康)
参加者	大西恒雄、杉本康夫、谷村洋子、安本嘉代、安岡和子、杉本栄子、小杉美代子、神阪洋子、野原勇							参加者数	9
担当者コメント	伊吹山の南にある霊仙山は有名だが、比良にも同じ山名の山がある。JR和邇駅ではタイミングよくバスに乗り、栗原で下車する。ここから真っ直ぐに山の方に伸びる舗装道路を小一時間進むと、案内板のある分岐点につく。霊仙へは左の電波中継所取付け道路の方に行く。中継所の門の前に道が延びていて霊仙山への標示がある。導かれてかなりの傾斜の道をゆっくりであるが、ひたすら登ると三角点のある霊仙山の頂上に着く。権現山のほうを見ると凹みがあるが緩やかで近そうに見えた。しかし、甘くはなかった。頂上からは一気の下りがあった。大きく下った分だけ、いやそれ以上の登りがあるということであった。下り道も徐々に緩やかになり、ゆったりした雑木のまばらな鞍部状のところに出る。ここがズコノバンというところらしい。意味は判らない。ここから雑木の中を進み、いつの間にか登りの傾斜もきつくなる。道も岩がちになってきて、ジグザグを繰り返して笹の中を行くようになると権現の山頂に着く。権現からは往路をズコノバンまで戻り、ここから権現登山道を下る。権現登山道は単調な下り道(登り道)である。滝谷という沢沿いになり、やがて広い林道に出会い山道は終わる。そのまま下ると朝の霊仙への分岐点に出る。後はひたすら舗装の道を下り、栗原を経て足が音をあげる頃和邇駅に着き、今回の山行きが終わった。 記:大西(恒)								
連番	499	例会No.	一般308	内容	播州・白山と丹波・妙見山	実施年月日	2013/4/28	担当者	板谷、杉本(康)
参加者	板谷佳史、杉本康夫、保木道代、安部泰子、杉本栄子、寺島直子、神阪洋子、福田直也、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子							参加者数	11
担当者コメント	大型連休前半とは無縁のような空席の多いローカル色満点の福知山線、加古川線をのんびりと乗り継ぎ、黒田庄黒田の本黒田駅に降り立つ。加古川に沿って県道を南下し、黒田庄前坂へ。そこにある大歳神社が前坂ルートの登山口であった。鮮やかな新緑とツツジの色を楽しみながら、爽やかな尾根を辿る。地元により良く整備された登路がいくつもあがるが、ほとんど人と出会うことも無く白山山頂に立つ。丹波、播州両方向が望める好展望台である。白山を後にして妙見山へ向かう、こちらにも更に静かな道だ。妙見山直下の周遊路を歩いて妙見堂や「まばお」(意味不明の展望場所)を経て最後に妙見山頂上へ。本日の行程もここで終わり一路谷川駅へと下山する。 記:板谷								
連番	500	例会No.	一般309	内容	京都・愛宕山	実施年月日	2013/5/6	担当者	秋田、翁長
参加者	秋田文雄、翁長和幸、青木義雄、杉本栄子、山耕初好、安本昭久、寄川都美子、紀伊栞本博美、安本嘉代、上原進一、和田良次、和田敬子、藤田喜久江、和田都子、喜多田恵美子、片山純江、山縣直子、大岡幸子、田中和美、寺島直子、近藤さとみ、福田直也、岸田暎子、谷村洋子、小杉美代子							参加者数	25

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>愛宕山の例会は、EPEで何度か行っているが、保津峡からは例会としては初めてと思う。JR保津峡駅から五月晴れの天気の中、9:00出発する。赤い保津峡橋を渡り左に1/25000地図に沿って尾根を登る。取り付きは、地図上の点線より300mほど上流の小さい沢の小道を登ると、しっかりした登山道に合流する。これがツツジ尾根の登山道らしい。迷う事無くひたすら登れば、荒神峠に着く10:40。1/25000の地図上では愛宕山参道までは点線は無いが立派な登山道で、急な登りで一汗かくが涼しい風に助けられ、一頑張りで愛宕山参道に合流する。あとは水尾分岐と階段上の道を黒い門(総門)と続くが、愛宕山は近いと思うと、たいした登りでも無いのに疲れる。石灯笼の左右に立ち並ぶ参道の横の広場で大休息(12:10着)する。残り少ないサクラを見て本殿の愛宕神社に参拝し「火廻要慎」のお札を受ける人も。下山は、月輪寺を経て清滝に。本殿の階段を下り左に折れ少し行くと月輪寺の標識があり、細い急な登山道を下ると月輪寺(14:45)に。立派な石楠花を眺め休息とる。月輪寺から下りは岩の多い急な階段状で歩き難いが空也滝分岐まで、此処からは舗装された林道を清滝バス停(16:40)へ。JR京都市行き最終バスに乗る、バス停にて解散する。今回の例会は天候に恵まれて暑くもなく、のんびりとした山行でした。 記:秋田</p>									
連番	501	例会No.	一般310	内容	六甲最高峰から宝塚	実施年月日	2013/5/12	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、山根初好、小杉美代子、杉本栄子、福田直也、紀伊莚本博美、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子							参加者数	10	
担当者コメント	<p>1週間前の天気予報では、今日は雨マークで距離も長く参加者も少ないと思っていたが、2~3日前の天気予報から徐々に天気が前倒しになり今日は晴。参加者も10名となった。六甲山は今まで数え切れない程歩いているが、西お多福山は登ったことがなく、これまた歩いたことのない保久良神社から登るコースに決定。岡本駅から住宅街を抜け、保久良神社へ。神社横の毎日登山の会事務所に貼ってある表を見ると最高は1万7千回を超えている。1日1回とすると約半世紀、1日複数回登ったとしても気の遠くなるような記録だ。保久良神社から打越峠までは順調だったが、打越峠でルートの間違え予定していなかった打越山に登頂。そこで引き返せばよかったが、住吉川の五助堰堤経由のルートに急遽変更。結果的に予定したルートより西お多福山まで1時間以上も余計に費やしてしまった。西お多福山から30分余りで六甲最高峰に続く舗装路へ飛び出す。時間は午後2時。私が当初見込んでいた時間より2時間の遅れ。このままのペースでは宝塚到着がかなり遅くなると予想される状況となった。休憩後、ここで体調を崩した方1名と、ペースが上がらない方1名計2名には小椋さんのサポートで下山してもらうことに決める。残念だが、この先の道のりを考えると途中でダウンすることも考えられ大事を取った。3人と別れてからは、歩きなれた縦走路を宝塚へ向けて一気に歩き、4時35分に塩尾寺到着。5時15分過ぎに阪急宝塚駅到着、解散とした。 記:野原</p>									
連番	502	例会No.	一般311	内容	丹波・甚五郎山、羽束山、宰相ヶ	実施年月日	2013/5/19	担当者	翁長、秋田	
参加者	翁長和幸、秋田文雄、櫻田克彦、谷村洋子、近藤さとみ、寄川都美子、寺島直子、紀伊莚本節雄、野口秀也							参加者数	9	
担当者コメント	<p>今日は誰にも会わない、私たちだけの羽束山でした。六丁峠の地藏さんは大きな前掛けとよだれかけ、帽子もかぶせてもらっていたので写真に収めました。頂上台地は、南から北へ展望台、羽束神社、山頂、鐘つき堂、観音堂と広がっており、鐘つき堂前の2~3m盛り上がった藪の中に、唯一頂上を示す山名板があった。斜めに取り付けられて何だか寂しそうな感じだった。 記:翁長</p>									
連番	503	例会No.	OP183	内容	大峰・高塚山	実施年月日	2013/5/26	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、寺島直子、安岡和子、川守田康行、近藤さとみ、谷村洋子、黒澤百合子、神阪洋子、安本嘉代、小杉美代子、江本恭子							参加者数	12	
担当者コメント	<p>来週には梅雨入りか?という5月最後の例会は快晴に恵まれ、まさに緑したたる大峰を味わうことができました。大峰主稜線だけでは飽き足らず、支稜上のピークを訪ね歩いてきましたが、なかでもこの主稜から高塚山への尾根が最も自然が残されている気がします。近くまで来ているナメゴ林道もすでに廃道化し、山仕事にも入らないようです。残念ながら、なぜかシャクナゲは皆無なのですが、それを差し引いても季節を通じて大峰の雰囲気を手軽に味わえる山域だと思います。 記:板谷</p>									
連番	504	例会No.	一般313	内容	丹波・虚空蔵山と立杭の里	実施年月日	2013/6/2	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	翁長和幸、西村晶、寄川都美子、青木義雄、櫻田克彦、野口秀也、紀伊莚本節雄、紀伊莚本博美、渡邊恵美子、小杉美代子、保木道代、西村美幸							参加者数	12	
担当者コメント	<p>山は見る角度により姿が変わる。虚空蔵山もそういった山の1つ。南北に長く東西の幅は狭い。北方より見ると、三角形のなかなか見栄えのする山である。今回は三角形のスカイラインを東より西に横断した。従って、少々きつい山道であったが600m足らずの山なので、ふた汗ぐらい汗をかく頃山頂着であった。下山は陶の里へ。ここは日本六古窯(にほん ろっこよう)の1つと云われる立杭の里。窯元がたくさんある所です。中国や朝鮮半島から陶磁器の技術が入ってくる以前の、日本古来の焼物の場所として有名な所です。昔の街道筋と思われる通りを散策。今も時折使われているような登り窯を見たり、3~4軒の店をのぞいたりし、ハイキングの'おまけ'を楽しみました。 記:翁長</p>									
連番	505	例会No.	一般314	内容	ベーシック登山No.19 六甲山	実施年月日	2013/6/8	担当者	秋田、杉本(康)	
参加者	秋田文雄、杉本康夫、青木義雄、寄川都美子、齋藤容子、山下登志子、三原博子、岡本佳久、山本洋、上原進一、和田良次、和田敬子、藤田喜久江、和田都子、喜多田恵美子、片山純江、吉田伸實、櫻田克彦、實操綾子、野口秀也、磯辺秀雄、堀木宣夫、三原知未							参加者数	23	

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>今回の例会は夏山前に暑さに馴れてもらうのと、身体の調子を整えてもらう事を目的とした例会です。芦屋からお多福山を経て六甲山最高峰は、少し長丁場に成るので、ベシック例会では暑い日では、無理があるのでバスで東お多福山登山口から登る。登山口は、昔と違い近くに住宅もできその住宅街の山腹を巻くように東お多福山に登る。東お多福山の頂上は西宮・芦屋方面しか展望がありません。昔はロックガーデンで岩登りを楽しみ、ポッカで宝塚へ行くのに東お多福山で草原的な雰囲気と六甲山西高峰から大阪湾を一望し癒されたのですが、木が伸びて昔ほどの景観はありませんでした。東お多福山を(11:10)後に土樋割峠に下る。峠から今日一番の急な登り、一息着きたい頃に蛇谷北山12:10(840m芦屋市最高峰)に。狭い頂上はEPEメンバーで埋まるぐらいだ展望もなく、早々に石の宝殿へ、細い痩せた尾根を登ると石の宝殿(12:30)此処で昼食にする。石の宝殿から六甲山最高峰を往復する。ドライブウェイに沿って登山道を行くが車が気にならない木々が茂った静かな登山道。六甲山最高峰(13:40)は、やはり人が多いので、早々に石の宝殿に。石の宝殿より登山道を下るとドライブウェイの車道に沿って20分行くと宝殿橋バス停14:42に着く。今日は天気も良く暑くも無く良い登山日和でした。バス停で解散。定員オーバーと思われる満員のバスで阪急芦屋川駅へ。 記:秋田</p>									
連番	506	例会No.	OP184	内容	高野山・不動谷川弁天谷廻行	実施年月日	2013/6/9	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、黒澤百合子、山柘初好、江本恭子、安岡和子、川守田康行、寺島直子、古松育代、駒井万生子							参加者数	11	
担当者コメント	<p>高野山周辺の谷は今まで全然未経験なのだが、電車のみで入谷できる便利さに惹かれて計画した。入谷してみると最初から伐採地の通過、間伐で切り倒されたまま放置された杉が谷を埋め尽くしている。おまけに水害で倒れたものも加わり、これを一本一本くぐったり、乗り越えたりして行くのかと思うとんざりする。それでも一時間ほど進むと倒木から解放されてそれらしい滝が現れていずれも直登していけるようになり、沢登りらしい雰囲気になってきたので計画した担当者としては、一安心だ。水量が少ないぶん滝の迫力は今一つだが、そのぶん直登はたやすくなっている。上部で道路が横切る沢なのでお世辞にもきれいとは言えない源流であったが、今年の足慣らしとしては皆さんの役に立ったのではと思っています。 記:板谷</p>									
連番	507	例会No.	OP185	内容	湖北長浜・虎御前山 ハイキング+歴史探訪No. 23 +プラスα No. 10共催	実施年月日	2013/6/16	担当者	紀伊栞本(節)、小椋(勝)	
参加者	紀伊栞本節雄、小椋勝久、福田直也、櫻井宏子、松田芳治、安本嘉代、安本昭久、寄川都美子、樺田克彦、紀伊栞本博美、山下登志子、高木恵美子、野原勇、大石隆生							参加者数	14	
担当者コメント	<p>6月半ばと云うのに爽やかな青空に恵まれました。午前中は虎御前山で歴史探訪、午後は鮎茶屋で本場の鮎尽くしと、EP Eならではの結構な例会です。小谷山城へは歴史探訪シリーズ2番目の「雪の小谷山城と盆梅展」から数えて8年目になります。シリーズは今回で23回目を迎えました。何となく感慨深いものを感じます。若い頃に比べて一番違うと思うことは、一期一会の意味するものが、ズシリと重く実感できることです。我が身の事柄ばかりではなく、歴史上の様々な移りゆく出来事にも、ああ〜と感嘆するに何の憚りもありません。ときには涙も浮かぶほどですが、それがまた午後にはカラリと変わり、乾杯と談笑この落差がたまたま痛快です。次回もさらに楽しく面白く、ハイキング+歴史探訪+アルファと頑張りました。 記:紀伊栞本(節)</p>									
連番	508	例会No.	一般315	内容	小野アルプス	実施年月日	2013/6/23	担当者	杉本(康)、翁長	
参加者	杉本康夫、翁長和幸、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、寄川都美子、堀木宣夫、樺田克彦、福田直也、山柘初好、黒澤百合子							参加者数	10	
担当者コメント	<p>小野アルプスは、小野市が「小野アルプス縦走ハイキング」と銘打って、イベントを組んでおり街中から近く、手軽に登山を楽しめるコースでもあります。今日はあいにくの雨のため行きかう人は少なかったが、晴れていればもっと人も多かったのではないかと思います。過去の例会を見ると、このルートは以前に例会を持たれているが、今回は以前と逆コースでしかも全山縦走しようと計画を立てました。加古川駅でタクシーに乗り込むと雨がポツリポツリと降ってきた。前日の天気予報では、曇りで雨の確率は0%であったので、そのうち止むだろうと思っていたが、結局、雨の一日になった。このため気温はさほど高くはなかったが、湿度が高く歩くに汗だくなる。福匂峠から50分ほどで紅山に到着。目の前には遮るものがなく300度(背後にだけ樹林がある)の眺望が楽しめ、これから登る惣山も一望のもとに見渡せる。眼下には、ため池やダムに至る所にあり、播磨の農民にとって水は大きな悩みの種であったことがうかがえる。瀬戸内海は雲に隠れて見えなかったのが残念である。山陽自動車道も見渡せ、コースも並行しているので、最後まで車の音を聞きながらの登山になった。紅山からの下りは約35度の傾斜のある岩尾根で、雨でぬれていたため、ザイルを張ることにした。惣山は、小野富士と呼ばれているが、樹木が茂っていてまったく展望がきかないが、小野市内から見れば端正な形の山であるのだろう。紅山付近以外は総じて樹林の中でのコースであるが、自然林であるのがうれしい。最後の高山で12座全山の縦走が終了しました。200mにも満たない山であったが、尾根通しでアップダウンのある登り応えのあるコースでもあった。今回の例会は一般例会315回目にあたり、オプション例会185回を合わせて500回目に相当する栄誉ある例会を担当したことに大変光栄に思います。有難うございました。 記:杉本(康)</p>									
連番	509	例会No.	一般316	内容	泉南・雲山峰	実施年月日	2013/6/29	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、西村晶、青木義雄、寺島直子、寄川都美子、松本明恵、神阪洋子、福田直也、山本洋、和田敬子、熊谷節子、牛山友幸、牛山恵美子、田中和美、和田都子、喜多田恵美子、藤田喜久江、片山純江、翁長和幸、紀伊栞本節雄、實操綾子							参加者数	22	

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>今回の目標とした雲山峰、山名の由緒は分からないが、ガイドブックによると関西空港や和歌山市街が一望できるという。何かしらロマンを感じる山名だ。今回の入山口JR山中溪駅は、大阪府下唯一のJR無人駅かつ府下最南端の駅。春には沿線の桜並木が絶景らしい。今回は初めての参加者も含めて22名という多人数となった。コースは全般的に見て急登といえるような傾斜もなく、樹林帯中心のコースで直射日光にさらされ続けるということもなく歩き易い。また分岐など要所には標識が設置されており、道迷い遭難防止も徹底されている感じだ。阪和自動車をくぐった先の登山口からは登り一方で第一パノラマ台到着。この第一パノラマ台は大阪湾に浮かんだ関西空港だけでなく、遠く淡路島や六甲山方面も見通せるらしいのだが、今回はあいにく霧がかかったような感じで関西空港はおろか海と陸地の境もハッキリしない、残念。四ノ谷山から雲山峰直前までの稜線は右が大阪、左が和歌山というように県境を歩く。雲山峰頂上は稜線上の一点に過ぎず、石を積み重ねた小さな祠があるだけで展望もなくピークという感じはまったくない。頂上から15分程度歩いた青年の森展望広場は、ベンチなども完備した文字通り展望抜群の広場だ。滔々と流れる紀ノ川を眼下に昼食大休止。昼食後、役ノ行者と役ノ行者の母を祀った「役ノ行者堂」を経る墓の谷コースへ。役ノ行者堂前の案内板を読むと、いつの世にも通じる母の限りない子に対する愛情を感じる。「墓の谷」は別名「母の谷」とも言うそうだ。その後一路終点のJR六十谷駅を目指した。記:野原</p>									
連番	510	例会No.	一般317	内容	京都・雲取山	実施年月日	2013/7/7	担当者	大西(恒)、大石	
参加者	大西恒雄、大石隆生、杉本栄子、保木道代、紀伊塾本節雄、福田直也、翁長和幸、小杉美代子、櫻井宏子、藤田喜久江、和田都子、和田敬子、片山純江、寄川都美子、實操綾子、紀伊塾本博美、野口秀也、谷村洋子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	20	
担当者コメント	<p>例年通りなら梅雨真っ只中のこの時期、雨具を着込んで歩くことになって思っていたが、意外にも真夏日を思わせる日差しの中を歩くことになった。でも、コースの大半は北山杉の林間で、沢沿いでは涼気に幾分か救われ、夏山のトレーニングとも思える一日でした。登山口から林道を進み、北山杉の林の中を寺谷峠へと登る。反対側に下って一ノ谷出合、穏やかなこの谷を詰めて雲取峠へ。ここからは稜線通しで雲取山頂上に着く。下りは二ノ谷にとり、二ノ谷出合からは先程の一ノ谷出合へと林道を経て登り返し、往路を辿って登山口へと戻る。稜線通しの上り下りとは違い今回のコースは、峠を越えてから目指す頂上に連なる稜線に至る谷を登り、頂上からは谷を下って再度峠を越えて戻ってくるというもので、北山の魅力とはこんなところにもあるのかな・・・との思いがしたのですが、参加の皆さんは如何だったでしょうか。記:大西(恒)</p>									
連番	511	例会No.	OP186	内容	比良・鴨川八池谷廻行	実施年月日	2013/7/14~15	担当者	板谷、安部	
参加者	板谷佳史、安部泰子、保木道代、川守田康行、江本恭子、寺島直子、古松育代、駒井万生子							参加者数	8	
担当者コメント	<p>7/14 とつに梅雨明けしたが、こここのところ不安定な天気が続いている、今日も午後になると時折ゲリラ的に強い雨が降る。ガリバー旅行村から先の林道に進入しても良いテント場が見つからず、旅行村のテントサイトを借りることにする。おかげで夕食はキャンプ場内施設の屋根の下を見つけていつものように盛り上がる。夜半も時折強風雨となる天候であった。7/15 4時起床する頃には曇ってはいるが降る気配はなさそう。キャンプ場は満員に近そうに賑わっているが、山に入る者は皆無、旅行村からの遊歩道を辿って黒谷林道終点へ、そこから八池谷に入谷する。この谷の前半は「ハツ淵の滝」見物コースとしてハシゴやクサリの整備がされているので、これを使って時間短縮できるのが強みだ。魚止めの滝、障子ノ滝を通過して空戸ノ滝のゴルジュ帯となるが、クサリを伝っている間に巻き道を登り切ってしまった。いったん登山道に出て貴船ノ滝へ、これも登山道として設置されているクサリやハシゴに助けられて登るといったん平流となりホッとする。更に七遍返しノ滝等をこなすと比良ロッジ跡への道が別れ、予定した廻行終了点まで行ける目途があった。そこから先、水量は減るがまぼろしの滝ほか、いくつかの滝をこなすとやがて流れがおだやかになって広谷の道標が現れて登山道が横切り、廻行を終了した。記:板谷</p>									
連番	512	例会No.	一般318	内容	比良・御殿山～武奈ヶ岳	実施年月日	2013/7/21	担当者	小椋(勝)、杉本(康)	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、神阪洋子、谷村洋子、寄川都美子、小杉美代子、寺島直子、永島健一、櫻井宏子、翁長和幸、堀木宣夫							参加者数	11	
担当者コメント	<p>梅雨明けから夏日が続く毎日、その中で比良 武奈ヶ岳西南稜、何人参加するのだろうかと不安な気持ちで大阪駅へ、待ち合わせの時間が近づくにつれて、1人、2人と集まり、この暑さの中でも山に行こうかと元気なEPE会員が9名参加。安堵とともに電車に乗る。坊村に着くころには気温も上がり水分補給などの注意事項を説明し出発。樹林帯の中、風のない急登を汗をかきながらゆっくりと登る。とにかく暑い、水分を補給しながら登るも何人かがバテぎみになった。帰りのバスの時間をあきらめ、ゆっくり休みながら登る事にする。途中、御殿山 直下の広場で休憩するが風もなく暑い中での昼食 それでもにぎやかな昼食は元気だなど改めて思わせられた。急登の樹林帯を登り切り御殿山に着くと、目の前に西南稜から続く武奈ヶ岳の雄大な景色、やはり来てよかったと思ったのは私だけだろうか。御殿山からあと少しと言いながら武奈ヶ岳に向かう、途中稜線の風は心地よく暑さを忘れさせてくれた。武奈ヶ岳に到着後 少しの休憩、帰りの時間を気にしながら武奈ヶ岳を後にする。御殿山からの下りは長い急こう配の下り道、下りも蒸し暑く汗をかきながら、下降する。明王院が見えるとホッと一息、下山後 坊村からタクシーを呼び帰途に着く。色々反省点もある山行でしたが暑い中、皆さん御苦労さまでした。記:小椋(勝)</p>									
連番	513	例会No.	一般319	内容	北摂・ポンポン山～善峰寺	実施年月日	2013/7/28	担当者	野原、翁長	
参加者	野原勇、翁長和幸、安本昭久、杉本栄子、堀木宣夫、福田直也、近藤さとみ、安本嘉代、松本明恵、安岡和子							参加者数	10	
担当者コメント	<p>今回は当初予定していた私のお勧めコースが新名神高速道路の大規模工事のため通行止めになっており、本山寺手前まで舗装道路を歩くこととなった。途中適度に休憩をとりながら本山寺を経てポンポン山へ。私が初めてポンポン山に登った頃は、樹木で見通しも良いとはいえず、またベンチもあったかどうか記憶にないが、今は京都方面の木が切られて展望もよくなり、ベンチも大増殖状態で休憩が楽になった。ポンポン山からは、ほぼ平坦な道を進み釈迦岳へ。この蒸し暑い中、今日は登山者がやたらと多い。善峰寺への下山道を少し離れた展望台では、西国三十三所第二十番札所の善峰寺の伽藍の展望に目を奪われる。現在は35寺院を擁しているらしいが、最盛期は52寺院、衰退期は室町時代の合戦などで焼失し7寺院までに減ったようです。機会があれば是非とも見るべき価値のある景観です。下山後は、本日のメインイベント「サントリー京都工場見学」。最初の30分程度はビールについての説明や製造ラインの見学。後半30分がビール試飲タイム。銘柄はプレミアムモルツとモルツの2種類。出来たての新鮮なビールを堪能、毎年このような山行を開催して欲しいという参加者の声を受けながら、サントリー京都工場内で解散となりました。記:野原</p>									

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

連番	514	例会No.	一般320	内容	金剛山・妙見谷	実施年月日	2013/8/4	担当者	西村(晶)、大石	参加者数	13
参加者	西村晶、大石隆生、山杣初好、青木義雄、堀木宣夫、福田直也、寄川都美子、安本嘉代、寺島直子、近藤さとみ、黒澤百合子、渡邊恵美子、西村美幸									13	
担当者コメント	自然の涼しさと冷気に包まれた妙見谷を登りカトラ谷を下って来ました。私たち13名の先には20名程が先行されており、皆さんも暑さを逃れての山歩きです。8月の暑い時期は涼しげな水の流れを聞きながらの登山が一番気持ちが良いですね。記:西村(晶)										
連番	515	例会No.	一般321	内容	六甲山・有馬紅葉谷観瀑	実施年月日	2013/8/11	担当者	大石、杉本(康)	参加者数	12
参加者	大石隆生、杉本康夫、板谷佳史、江本恭子、岸田暎子、近藤さとみ、谷村洋子、寺島直子、西村美幸、松本明恵、安本昭久、安本嘉代									12	
担当者コメント	有馬温泉の旅館街を通り抜け、まずは公園の奥にある鼓ヶ滝へ。多少の違和感を覚えながら避暑客に混じって滝を眺めた後、林道から紅葉谷道を登り、分岐からフィックスロープがある細い道にそれて七曲滝へ。時折吹き上げて来る涼風とイワタバコの群生に癒される。分岐に戻り紅葉谷道をしばらく登ってから、百間滝と似位滝へと分岐を下って行く。百間滝には先行パーティがいたので、隣の似位滝へ。滝身に流木?が寄りかかっており、せっかくの眺めが台無しというところ。滝の真下で長めの休憩を取り、分岐に戻ってからはひたすら紅葉谷道を登って極楽茶屋跡へ。ここからはドライブウェイを何度か横断する縦走路となるため酷暑を覚悟していたが、ほとんどが木陰であったので助かった。でも、六甲山最高峰だけは日差しを遮るものが何もないので「暑い!!」の思いだけ。立ち止まって周りを眺めただけで、早々と一軒茶屋へと下って行く。魚屋道に入ると再び木陰の道となって蟬の声を聞きながら有馬温泉へと下り、入浴組と直帰組に別れるためかんぼの宿の前で解散とした。記:大石										
連番	516	例会No.	一般322	内容	湖北・横山岳	実施年月日	2013/8/18	担当者	野原、大西(恒)	参加者数	8
参加者	野原勇、大西恒雄、安本嘉代、岸田暎子、谷村洋子、小杉美代子、櫻井宏子、安本昭久									8	
担当者コメント	この横山岳は以前から気になっていた琵琶湖周辺の山のひとつ。いつか登ってみたいと思っていた山だが機会が無かった。ただこの山の登山適期は「春」と「秋」と記されているガイドブックが多いが、あえて夏真っ盛りのこの時期に計画した。白谷登山口には地元の「杉野山の会」が建てた立派な小屋と、登山者各個人が利用できるように等高線の入ったA3判の詳細な「横山岳登山案内図」も置いてあり、「杉野山の会」の横山岳に対する思いの深さを感じました。コースは白谷登山口から東尾根登山口まではガタガタの林道を進む。東尾根登山口手前に「夜這橋」「夜這いの水」など妖艶な名称の地点があるが由来はいったいなんだろう。東尾根登山口からはいきなりの急登だが、登山道は一直線ではなくジグザグに切られているため歩き易い。当初は杉の植林だが、主稜線に近づくにつれ美しいブナの林が続く。東峰から横山岳本峰である西峰までは展望が開けた尾根道。西峰の手前に「銚子の滝」ルートの標識があった。西峰頂上は広い草地であるが、樹木に遮られ展望はまったくない。居合わせた他の会の方が片隅にあったプレハブ倉庫(展望台)?の上に乗って景色を眺めていたが、さてどんな景色が広がっていたのだろうか。頂上から一気に鳥越峠への三高尾根の急下降。この三高尾根は今西錦司率いる三高(京都大学の前身)山岳部にちなんだことから名づけられたそうだ。雨が降ってればスリップ続出必定の道だ。念のためザイルを1本持ってきたが、使っていれば長時間の下山となっていたことだろう。鳥越峠からコエチ谷へは一旦50m登り直し、道標に従い左側へ下降。コエチ谷の林道に至る道は一部崩壊、また道も草に覆われていてハッキリしない部分もあった。コエチ谷登山口到着後、解散とする。参加の皆さま、この暑い中ご苦労さまでした。記:野原										
連番	517	例会No.	OP187	内容	湖北・三重岳間谷廻行	実施年月日	2013/8/24~25	担当者	板谷、安部	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	518	例会No.	一般323	内容	播州・七種山	実施年月日	2013/9/1	担当者	翁長、杉本(康)	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	519	例会No.	OP188	内容	南ア・鳳凰三山	実施年月日	2013/9/5~7	担当者	大石、野原	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	520	例会No.	一般324	内容	丹波・五台山	実施年月日	2013/9/7	担当者	大西(恒)、秋田	参加者数	8
参加者	大西恒雄、秋田文雄、杉本栄子、紀伊壱本博美、寺島直子、翁長和幸、堀木宣夫、紀伊壱本節雄									8	
担当者コメント	五台山の由来は、中国の五台山に倣って名付けられたらしいが孫悟空が出てきそうなど言うよりも、剣術の開祖が修行した滝があったり、不動尊があったり日本色紛々の雰囲気漂う山である。又、近くに宇の違う五大山があつてややこしい。ともあれ、この山やこの溪谷は「ふるさと兵庫50山」「兵庫観光10選」「兵庫の自然百選」と地元自慢の山域であることがうかがえる。一昔前は藪の茂るコースだったらしいが、浅山不動尊から「独鈷の滝」や小滝が続く谷沿いの道も整備され、谷を離れてもジグザグにしっかりとした道が日本の中央分水界の通っている稜線を通って小野寺山や五台山、更には鴨内峠を経て鴨内へ下るルートが整備されて大変便利な山になっている。生憎と天候はもうひとつで頂上からの展望はあまり良くなかったが、鴨内峠から鴨内の村落へ下ってみて、往路往復よりも充実したハイキング(山歩き?)になったことを実感しました。鴨内峠は、昔、氷上地方から福知山の城下町へ抜ける間道で交通の要所でありました。記:大西(恒)										
連番	521	例会No.	OP189	内容	播州・千ヶ峰	実施年月日	2013/9/8	担当者	小椋(勝)、板谷	参加者数	9
参加者	小椋勝久、板谷佳史、神阪洋子、黒澤百合子、寄川都美子、山下登志子、安本嘉代、保木道代、福田直也									9	

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	千ヶ峰 中国山地の最東端に位置する1005mの山、この名前を知った時、中国山地のほぼ真ん中あたりで育った私は興味深い山であり親しみが湧く山に思いつか登ってみたいと思っていました。中国自動車道を滝野社インターに向かっていく時、前が見えないほどの土砂降りの雨、いったいどうなるのかと同乗者の中から心配の声が上がり不安な気持ちで登山口へ 岩座神(いさりがみ)の神社に着くころには雨も上がり参加者口々に良かったねとの声、神社横に車を止め秋色を出し始めた棚田の中の農道を歩き杉木立の岩座神ルートの入口に着く、そこからの谷沿いのルートに登る、途中蛭に着かれた人もいたが被害が無いように思われた。岩座神の七不思議の案内を横目に汗をかきながら尾根道へ、尾根道で昼食を取り頂上へ、本来ならば見晴らしの良い山で有名ですが霧の為、視界は零。それでも頂上に着いた頃から徐々に視界が開け始めぼんやりと麓の黄金色した田んぼが見え始めた。ちよつとした秋を感じながら頂上で少し長めの休憩後下山する。中国山地 最東端の山、雨の中来てみて良かった。次は最西端の山かなと思いつながら千ヶ峰を後にしました。下山後、蛭の被害が続出 私も家に帰って鮮血にびっくり・・・ 記:小椋(勝)									
連番	522	例会No.	一般325	内容	三田・大岩ヶ岳	実施年月日	2013/9/15	担当者	翁長、西村(晶)	
参加者	参加者数									
担当者コメント	荒天中止									
連番	523	例会No.	OP189	内容	大台・東ノ川廻行	実施年月日	2013/9/15~16	担当者	板谷、安部	
参加者	参加者数									
担当者コメント	荒天中止									
連番	524	例会No.	一般326	内容	比叡山・横高山~小野山~梶山	実施年月日	2013/9/23	担当者	杉本(康)、野原	
参加者	杉本康夫、野原勇、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、寺島直子、保木道代、佐藤敏子、小杉美代子、谷村洋子、樺田克彦、山橋初好									
参加者数	11									
担当者コメント	朝夕は過ごしやすくなってきたが、街中ではまだまだ暑い日が続いていて、今日も30度を越える真夏日となっていた。京都の郊外まで来ると少しは涼しいかなと思っていたが、やはり暑い。登山口バス停からは樹林の中で日差しを避けることができ、高度を上げるにしたがって気温も下がり吹く風も汗をかいた体には心地よい。比叡山では「山はもう秋だ!」と体感じられる。1時間40分で比叡山の回峰行道に出会い、ここからなだらかな尾根道を進むと玉体杉に到着。京都市内や琵琶湖も見渡せ、風も吹いて気持ちよく過ごせる。回峰行者はここで止まって、御所に向かい玉体加持のお祈りするそうです。しばらく続いたなだらかな道もせりあい地蔵まで、ここから急登が始まるが、釈迦ヶ岳(横高山)や水井山とも標識や三角点がなければ気づかずに通過してしまうような平坦な山頂だ。このあたりからは、台風や豪雨の影響であろうか折れ枝や千切れ落ちた葉が山全体を覆っていてルートの見極めが難しい。注意深く進まない道迷いになってしまう。仰木峠から京都一周トレイルから分かれ不明瞭な道と林道の交錯する中、梶山に到着する。山頂には「梶山」「童髯山」「大尾山」の3つの標識がある。本当の山名は「梶山」であると「新ハイキング別冊関西の山」の56号(2001年1月)に掲載されている。梶山から三千院に至るルートはわずかな踏み跡を探しながらの沢の下りであった。音無滝付近まで来ると標識には、一般道ではないので注意して登るよにとの注意書きが立ててある。ここでもヒルがメンバーの一人のズボンに着いていた。三千院まで来ると観光客も多くその中をかき分けるように大原のバス停に着く。 記:杉本(康)									
連番	525	例会No.	一般327	内容	ベーシック登山No.20 湖南・奥島山	実施年月日	2013/9/28	担当者	秋田、大石	
参加者	秋田文雄、大石隆生、和田敬子、片山純江、和田都子、池田える子、堀木宣夫、山本洋、青木義雄、上原進一、樺田克彦、三浦清江、紀伊栞本節雄、紀伊栞本博美、高木恵美子、野口秀也									
参加者数	16									
担当者コメント	JR近江八幡駅より国民休暇村バス停へ。出発準備し、今回初めて参加される方がおられたので、自己紹介をすませ出発10:30。登山道入口は湖岸道路を約10分戻った所に見落とすような標識あり。細い道で緩やかな登りが続く。人が入山していないのか、蜘蛛の巣が多く掃いながら。384P(御所山)を、湖岸を巻くように道なりに登ると迷う事無く林道の終点(12:05)に出る。昼食休憩、此れより奥島山は、尾根通しに359Pを越えて少し下り、登り返すと、御中主尊(盤座信仰)標柱に着く。ここは展望も良く比良山系(蓬萊山、堂満岳、武奈ヶ岳、釈迦ヶ岳)が琵琶湖の湖面の向うに見える。此処までで唯一の景色だ。奥島山は直ぐそこだ。奥島山13:35着く。奥島山三等三角点(425m)周囲は灌木で薄暗く展望も好くない。奥島山は、別名津田山、姨綺耶山(いきやま)とも呼ばれている。山頂より少し離れた所に鳥居としめ縄が張られた大岩が祀である。山頂からは、よく踏まれた登山道を小豆浜分岐まで下る。分岐より長命寺山(333m)の裾を巻いて長命寺に行く車道に出る。此処は奥島山にいく登山道の入口です。今回は長命寺(西国三十一番札所)に寄らず、車道を下り長命寺バス停(14:50)にて解散する。 記:秋田									
連番	526	例会No.	一般328	内容	比叡山・行者道	実施年月日	2013/9/29	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、近藤さとみ、神阪洋子、寺島直子、安本嘉代、谷村洋子、安本昭久、岩本和行、寄川都美子、小杉美代子、保木道代									
参加者数	12									

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>比叡山は4回目だが、登山対象として登るのは初めて。初めての比叡山は35年前、職場の研修で延暦寺会館に一泊。この時、講話をされた葉上照澄さんという千日回峰行をやり遂げたお坊さんから修行(籠山行や回峰行)のことや、2回目の千日回峰行に挑まれている酒井雄哉さん(先日9月23日死去)の話聞き、この時代にあっても想像を絶する荒行が行われていることに驚きました。そして翌早朝に一人で境内を散歩している時、飛ぶように歩いている回峰中の酒井雄哉大阿闍梨に遭遇、思わず頭を垂れ合掌したことを思い出しました。そういう経験もあり、比叡山の千日回峰には興味を持ってはいたが、実際に登る機会を持つことがなかった。EPEの過去の例会を調べると東塔から西塔、横川を通過して日吉大社に下る山行はなく実施を決定、計画しました。松ノ馬場駅での朝礼では千日回峰行の説明とコース案内。登山道はよく整備されており迷うことなく明王堂を経てロープウェイの延暦寺駅到着。東塔地域に入る手前の受付(参観料徴収所)では通過するだけということ伝え、参観料金を払うことなく入山。延暦寺の中心となる東塔・根本中堂周辺は観光客でいっぱい。東塔地域から西塔地域に向かう途中で1週間前に歩いた「横高山～小野山～梶山」のルートに合流。1週間前と同様、展望に恵まれた玉体杉で昼食休憩。横川(よかわ)地域の入口受付でも、通過するだけということを書いて通り抜ける。横川からは三石岳の巻き道を経て八王子山へ。八王子山山頂の直下にある日吉大社の奥宮にあたる牛尾宮と三宮宮は見た瞬間、清水寺の舞台を連想する見事な社だ。急な石段を毎年4月に行われる山王祭の夜、松明を先頭に大きな神輿を命がけて担ぎ下ろすとのこと。広い参道を日吉大社へ下り参道入口で解散。お疲れさまでした。 記:野原</p>									
連番	527	例会No.	一般329	内容	大阪・剣尾山	実施年月日	2013/10/6	担当者	杉本(康)、大石	
参加者	杉本康夫、大石隆生、山根初好、近藤さとみ、杉本栄子、堀木宣夫、福田直也、櫻田克彦、戸田晴子、實操綾子、寄川都美子、渡邊恵美子、紀伊榎本節雄、片山純江、和田都子、藤田喜久江、小杉美代子、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、谷村洋子							参加者数	21	
担当者コメント	<p>能勢の郷行きバスは午前便1本になった為か、登山者や地元の人たちで超満員である。林道脇の「右 是より行者道」と彫られた石柱から杉林の中の登山道に入る。巨石に描かれた大日如来像や梵字の中を進んでいくと行者山に着く。古くからの山岳信仰の中心で、修験者の行場だけあってあちらこちらに岩が点在する。山頂手前には大阪府指定史跡の月峯寺跡も現れる。剣尾山の山頂は大小の台状の岩が横たわっていて、深山高原、北摂や丹波の山々、これから登る横尾山が眺められる。バスで同乗の外国人のサークル(日本人、白人、ヒジャブを着用した女性ら)も同じになり国際色豊かである。さすがは北摂の人気の山だ。横尾山へ向かう道の左手側に植林された木がプラスチックの筒に覆われている。鹿の食害防止のためか、違和感がする。2本の大きな石柱「国界石柱」(丹波・摂津国界の文字が刻まれている)を過ぎると、二等三角点の横尾山である。前方だけが開け深山高原が望まれる。ここから鹿除けのネット沿いに、直接西日を受けながらの下りになり能勢の里へ着く。 記:杉本(康)</p>									
連番	528	例会No.	一般330	内容	丹波・長老ヶ岳	実施年月日	2013/10/13	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者	板谷佳史、小椋勝久、福田直也、櫻田克彦、岸田暎子、谷村洋子、安本嘉代、寺島直子、松本明恵、安部泰子							参加者数	10	
担当者コメント	<p>大阪駅から東海道線～山陰線の各停列車～タクシーと乗り継ぐこと約3時間で登山口である上乙見(かみおとみ)の集落に着く。奥に続く林道終点から道標に導かれて登山道に入る。今年の台風のためか道は荒れ気味だが何度か沢を渡り返しながらかつている。ところが沢沿いと尾根に向かう分岐状の所で沢沿いの踏み跡を選ぶとやがて道標も現れなくなり、赤テープが途切れ、踏み跡も定かでなくなった。正しいルートより一つ東の尾根を登っているが上部で出会えると見当をつけてそのまま強行。山仕事用らしい踏み跡を辿るうち「山頂まで20分」とある道標に出会い、元の登山道に戻った。山頂からの丹波、若狭の展望を楽しむ。10月となっても暑い日が続くが、さすがに風は冷たく、一段下がったあづまやで風を避けての昼食。北面の路は仏主森林公園として整備されており、イワカガミの群落が続く斜面を眺めながら、秋の気配を感じつつ仏主バス停へ。ところが下山途中やバス停からタクシー会社へ迎え依頼の電話をするのだが、返事はのりくすり。迎車の距離が割に合わないということらしく、早く言えば乗車拒否された。仏主(ほどう)からの路線バスは登校日以外の土・日・祝は運休だし、結局和知駅ではなく園部駅まで乗ると言う条件でようやく来てくれることに。園部に出る方が列車の本数も多く結果としてはオーライであったのかもしれないが、行き時には気分よく乗せてくれただけに煮え切らない対応に二度と乗りたくないと思うタクシー会社でありました。 記:板谷</p>									
連番	529	例会No.	一般331	内容	東播磨・高御位山～桶居山	実施年月日	2013/10/20	担当者	西村(晶)、翁長	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	530	例会No.	一般332	内容	播州・明神山 ハイキング +プラスα No. 11共催	実施年月日	2013/10/27	担当者	紀伊榎本(節)、小椋(勝)、安本(昭)	
参加者	紀伊榎本節雄、小椋勝久、安本昭久、大石隆生、青木義雄、寄川都美子、小杉美代子、堀木宣夫、櫻田克彦、福田直也、上原進一、山下登志子、高木恵美子、紀伊榎本博美、西村美幸、西村晶、安本嘉代、近藤さとみ、保木道代、安岡和子、寺島直子、櫻井宏子、野原勇、杉本栄子、内杉安繁							参加者数	25	

2013年度('12/11~'13/10)EPEクラブ活動報告

2013/10/E現在 板谷

担当者 コメント	昼飯は控えめに汗は存分に出す、食い意地を張る訳ではないが、プラスαの日は誰もがよく頑張る。明神山はそんな要望にぴったりの山で、のんびり登るとかえって疲れます。頂上直下はハイキングコースにはめずらしく急峻で、休み休み登るより、リズムカルに早く登る方が危険も回避され、攀じ登る楽しさも倍加する、そんな山でした。余談ですが、これがいわゆる泉州会方式です。ハイキングで発揮される事はめったにありませんが、基本は常に同じエンジョイ、パワフル、エレガントの世界です。ところで、但馬牛に松茸のすき鍋は美味かったです。国産のマツタケなど長らく口にすることがなかったので、(恥ずかしながら)ひとり1人鼻先まで持ち上げてその香を嗅ぎ、それからやおら鍋に入れました。こんな仕草はひとりでするより皆んなでやる方が愉快です。今回も地元の村上鷹夫氏、元気村の損長氏、賄所のご婦人お二人にいろいろお世話になりました。また陰の立役者安本(昭)会員と、その所属先「黄河の森緑化ネットワーク」の御裾分けに心から感謝します。さて、次回のプラスαを何時、何処で、何とするか、そんな期待もプレッシャーも今は全部忘れる事に致しましょう。その時がくれば何とかなるものです。ケ-セラ-セラ、元気であることが一番です。 記:紀伊莚本(節)		
一般例会(新年会含む) : 43回 / 592名	オプション例会 : 15回 / 137名	例会合計 : 58回	参加者総数 : 729名